



Clavinova®

CVP-309/307/305/303

ク イ ッ ク ガ イ ド



このたびは、ヤマハクラビノーバCVPシリーズをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。CVPシリーズの優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくため、基本的な機能とその使い方をご説明するのがこの冊子「クイックガイド」です。取扱説明書と併せてご活用ください。

* このクイックガイドに掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。パネルと画面表示のイラストは、CVP-309のものを使用しています。

* 本文中では、CVP-309/307/305/303を「CVP」と表記することがあります。また、モデル名を省略し、「クラビノーバ」と表記することもあります。

目次

はじめに

デモを聞いてみましょう	3
-------------	---

主な画面の操作について	5
-------------	---

メイン画面の操作	5
選択画面の操作	5
ファンクション画面の操作	6

CVPの機能を使って楽しみましょう

いろいろな楽器音(ボイス)を使って演奏してみましょう	8
----------------------------	---

ピアノの音で演奏してみましょう	8
ボイス(楽器音)を変えて弾いてみましょう	11

ソングに合わせて練習してみましょう	14
-------------------	----

練習の前にソングを聞いてみましょう	14
ガイドランプを使って片手練習してみましょう	19
繰り返し再生を使って練習してみましょう	21
演奏を録音してみましょう	21

パフォーマンスアシスタント機能を使ってバックイングを弾いてみましょう	23
------------------------------------	----

伴奏を自動で鳴らしてみましょう(スタイル再生)	24
-------------------------	----

スタイルを使って「メリーさんのひつじ」を演奏してみましょう	24
-------------------------------	----

弾きたい曲に合ったパネル設定を呼び出してみましょう(ミュージックファインダー)	31
---	----

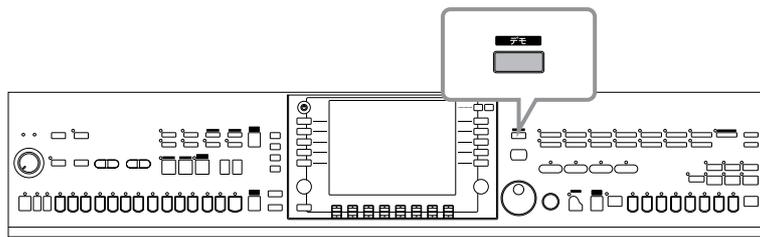
カラオケや弾き語りをしてみましょう	33
-------------------	----

マイクを楽器本体に接続しましょう	33
歌詞を表示させて歌いましょう	34
カラオケをするのに便利な設定	35
弾き語りをするのに便利な設定	37

索引	39
----	----

デモを聞いてみましょう

デモでは、ソングを再生するだけでなく、クラビノーバの持つさまざまな機能や魅力を画面で説明します。クラビノーバでどんなことができるのか見てみましょう。

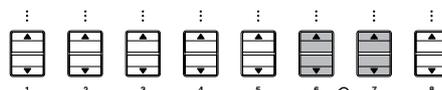


1 言語指定を確かめます。

- 1 [ヘルプ/言語]ボタンを押して、言語を切り替える画面を表示させます。



- 2 [6▲▼]/[7▲▼]ボタンで「JAPANESE」を選びます。



1-2

2 [デモ]ボタンを押して、デモをスタートさせます。

デモは、ストップするまで繰り返し再生されます。



3 [戻る]ボタンを押して、デモをストップさせます。

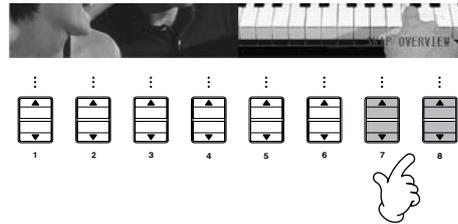
デモのストップと同時にメイン画面に戻ります。

※NOTE メイン画面とは
メイン画面とは、電源を入れたあとに表示される画面です。メイン画面には、クラビノーバを演奏する上で重要な情報が表示されません。



クラビノーバの詳細を紹介するデモを見る場合

1 デモ画面で[7▲▼]/[8▲▼]ボタンを押して、デモの項目を表示させます。



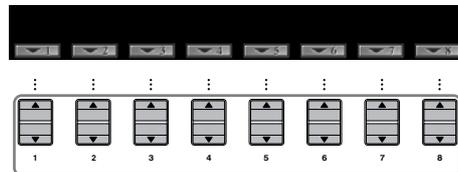
2 [A]～[I]ボタンを押して、説明を見たい画面を表示させます。

元の画面に戻るには、[J]ボタンを押します。



番号が付いている項目がある場合

該当する番号の[▲▼]ボタンを押します。



3 [戻る]ボタンを押して、元の画面に戻ります。



主な画面の操作について

このクイックガイドに出てくる主な画面の操作を、簡単にご説明します。主な画面は、3種類あります。

- メイン画面 下記参照
- 選択画面 下記参照
- ファンクション画面 6ページ

メイン画面の操作

メイン画面とは、電源を入れたあとで表示される画面です。メイン画面には、クラビノーバを演奏する上で重要な情報が表示されます。また、メイン画面から、表示されている機能に関連する画面を開くこともできます。

NOTE メイン画面の表示について
取扱説明書23ページを参照してください。

① [A]～[J]ボタン

[A]～[J]ボタンは、ボタンの横に表示されている項目に対応します。
たとえば[F]ボタンを押すと、ボイス(右手1)選択画面が表示されます。

② [1▲▼]～[8▲▼]ボタン

[1▲▼]～[8▲▼]ボタンは、ボタンの上に表示されている項目に対応します。
たとえば[1▲]を押すと、ソング(14ページ)の音量が上がります。

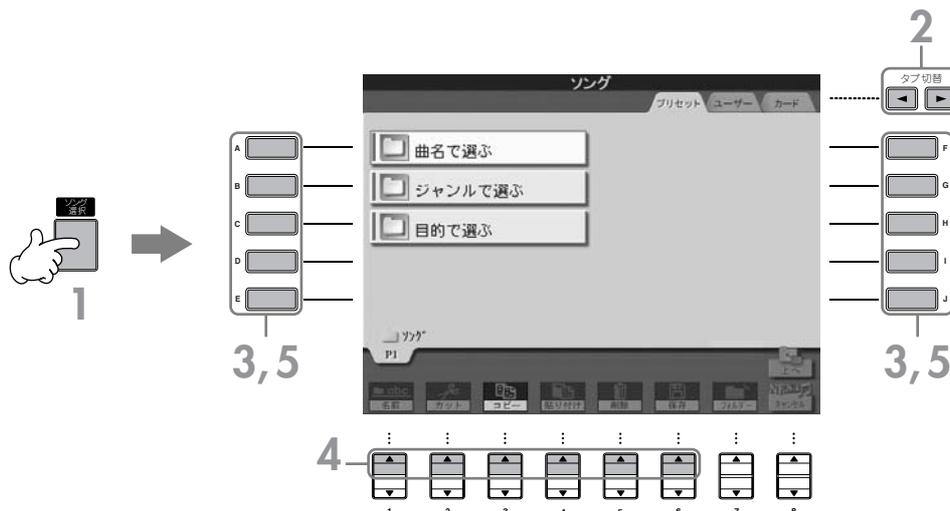
③ [ダイレクトアクセス]ボタンと[戻る]ボタン

ほかの画面を表示させたあとでメイン画面に戻すには、[ダイレクトアクセス]ボタンを押してから[戻る]ボタンを押します。



選択画面の操作

選択画面では、ボイス(8ページ)/ソング(14ページ)/スタイル(24ページ)などを選びます。
ここでは、例として、ソング選択画面を操作してみましょう。



1 [ソング選択]ボタンを押して、ソング選択画面を表示させます。

2 タブ切替[◀][▶]ボタンを押して、ソングの保存場所(プリセット/ユーザー/カード)を選びます。

プリセット/ユーザー/カードについて

プリセット.....楽器本体にあらかじめ準備されているデータが入った、内蔵メモリー (記憶装置)を指します。

ユーザー.....あなたが自由に読み書きできる内蔵メモリーを指します。

カード.....楽器本体のカードスロットに入れたスマートメディアを指します。

NOTE フロッピーディスクドライブなどの外部記憶装置をUSB[TO DEVICE]端子に接続すると、保存場所として「USB」が追加されます。

3 (必要に応じて)フォルダーを選びます。

ソングは、いくつかまとめてフォルダーに入っていることがあります。その場合、画面にフォルダー (右イラスト参照)が表示されます。フォルダーを選ぶには、[A]~[J]ボタンを押します。



4 (画面が何ページかに分かれている場合)ページを選びます。

選んだ保存場所にソングが10以上ある場合は、画面が何ページかに分かれます。ページは、画面の下部に表示されます。ページを選ぶには、[1▲]~[6▲]ボタンを押します。

5 [A]~[J]ボタンを押して、ソングを選びます。

[データダイアル]で選んで[エンター]ボタンを押して確定することもできます。

6 [戻る]ボタンを押して、元の画面に戻ります。

フォルダーを閉じてひとつ上の階層を表示させるには、[8▲](上へ)ボタンを押します。

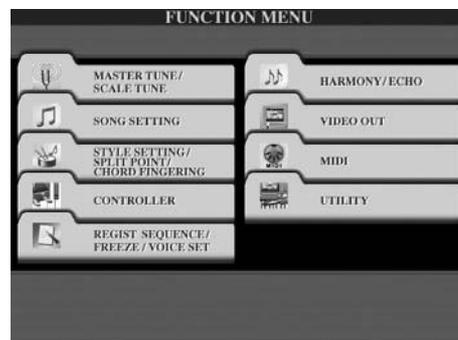
ファンクション画面の操作

ファンクション画面では、詳細な設定ができます。

ここでは、例として、鍵盤のタッチ感を変える画面を操作してみましよう。

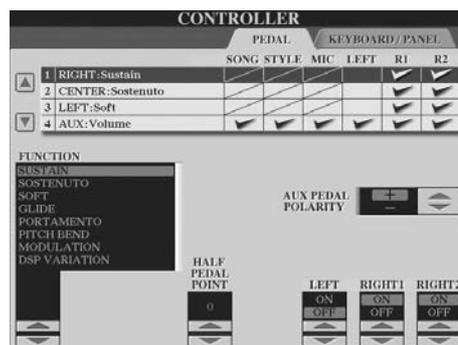
1 [ファンクション]ボタンを押します。

詳細設定がカテゴリー別に分けられて表示されます。



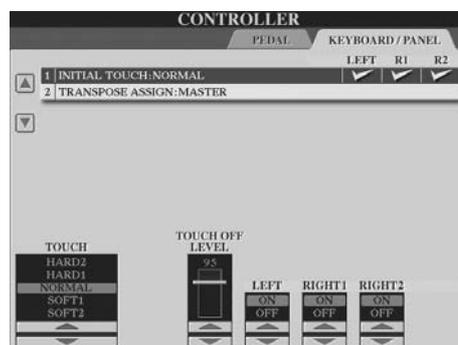
2 [D]ボタンを押して、カテゴリ「CONTROLLER」を選びます。

選んだカテゴリの中にさらにカテゴリがある場合は、画面の上部にタブが表示されます。

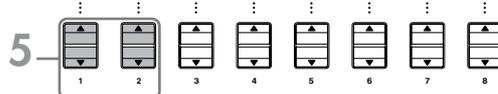
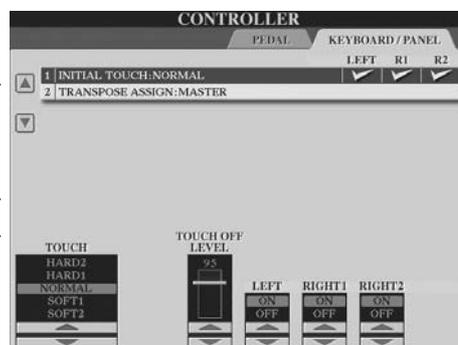
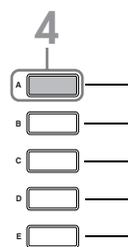


3 タブ切替[▶]ボタンを押して、「KEYBOARD/PANEL」タブを選びます。

タブを選んで表示させた画面の中にさらに項目がいくつかある場合は、画面にリストが表示されます。



4 [A]ボタンを押して、「1 INITIAL TOUCH」を選びます。



5 [1▲▼]/[2▲▼]ボタンを押して、鍵盤のタッチ感を選びます。

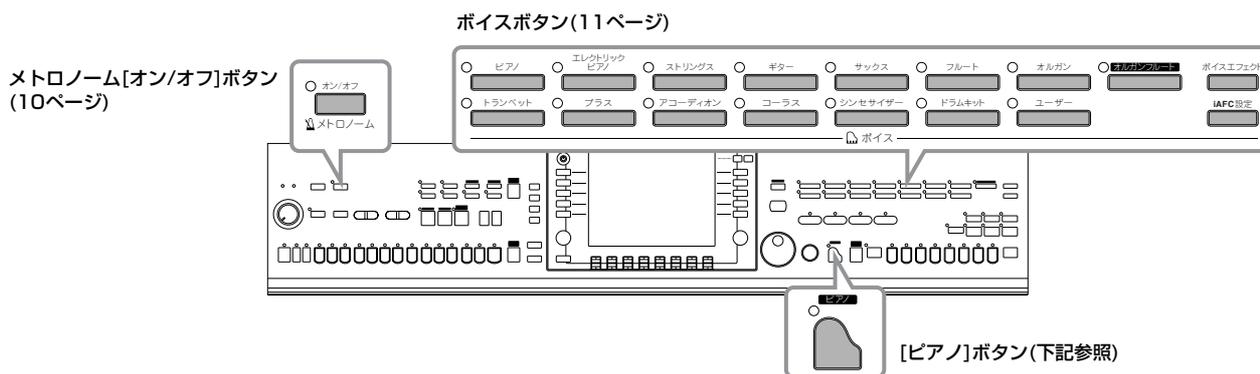
設定画面の表示方法は、以降の操作説明では「→」を使って表記します。

たとえば、上記の操作は、

[ファンクション]→[D]CONTROLLER→タブ切替[▶]KEYBOARD/PANEL→[A]1 INITIAL TOUCH
のように表記します。

いろいろな楽器音(ボイス)を使って演奏してみましょう

クラビノーバでは、ピアノをはじめ、さまざまな楽器のボイス(楽器音)を選んで弾くことができます。



ピアノの音で演奏してみましょう

まずはピアノの音で演奏してみましょう。ピアノの音で演奏しながら、ペダルやメトロノームも使ってみましょう。

■ワンタッチでピアノの設定を呼び出す

パネルの設定をピアノ演奏用に切り替えます。パネルがどんな設定になっていても、ワンタッチでピアノ設定を呼び出せます。

パネル右下部の[ピアノ]ボタンを押します。



ピアノ設定を固定する

ピアノ設定を固定(ピアノロック)すると、本体パネルのボタンを押しても設定が切り替わらないようにできます。たとえば、演奏会でピアノ演奏をしているときにあやまってソング(14ページ)をスタートさせてしまう、などのハプニングを防ぎます。

- 1 パネル右下部の[ピアノ]ボタンを押し続けます。メッセージが表示されます。
- 2 [F](OK)ボタンを押して、ピアノ設定を固定します。
- 3 ピアノロックを解除するには、もう一度[ピアノ]ボタンを押し続けます。

鍵盤のタッチ感を変える

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の付き方(タッチ感)を選びます。選んだ設定は、すべてのボイスに共通で有効となります。

- 1 設定画面を表示させます:

[ファンクション]→[D]CONTROLLER→タブ切替[▶] KEYBOARD/PANEL→[A]1 INITIAL TOUCH

- 2 [1▲▼]/[2▲▼]ボタンを押して、鍵盤のタッチ感を選びます。

HARD 2.....重いタッチです。強く弾かないと大きな音が出ません。

HARD 1..... HARD 2とNORMALの中間のタッチです。

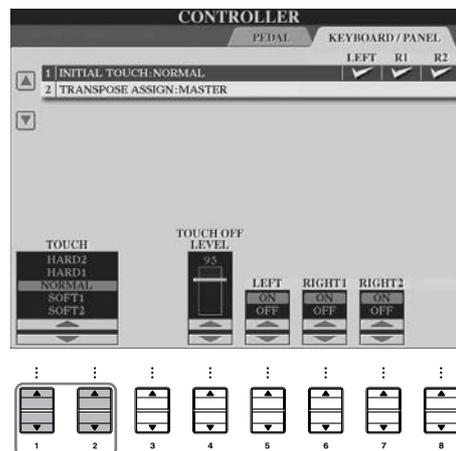
NORMAL..... 標準的なタッチです。

SOFT 1..... SOFT 2とNORMALの中間のタッチです。

SOFT 2..... 軽いタッチです。弱く弾いても大きな音が出ます。

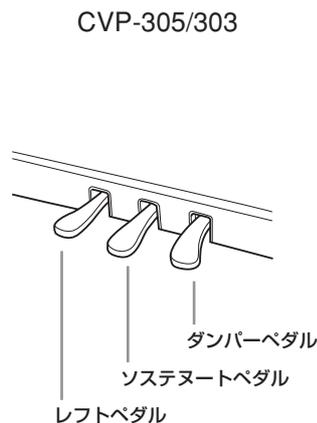
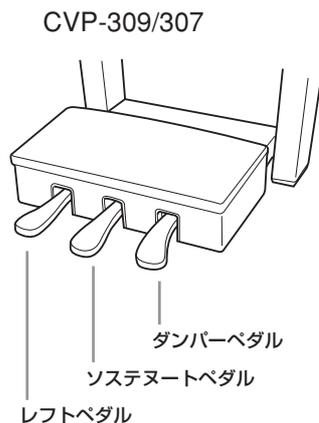
NOTE

- ・ タッチを変えても、鍵盤の重さは変わりません。
- ・ タッチを付けたくないときは、[5▼]~[7▼]ボタンを押して、鍵盤パートごとにタッチをオフにします。タッチをオフにしたときの音量は、[4▲▼]ボタンを押して調節します。



ペダルを使う

クラビノーバには3本のペダルが付いています。



●ダンパーペダル(右のペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。

- NOTE**
- ・ボイスによって、ダンパーペダル使用時に、音がゆっくり減衰して消えるものと、持続して消えないものがあります。
 - ・ダンパーペダルは、[ドラムキット]、[GM&XG]、[GM2]グループの中でダンパー機能に適さないボイスには機能しません。



●ソステヌートペダル(まん中のペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。

- NOTE**
- ・[ストリングス]や[プラス]などの持続音系のボイスでは、ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず踏んでいる間鳴り続けます。
 - ・ソステヌートペダルは、[ドラムキット]、[GM&XG]、[GM2]グループの中で、ソステヌート機能に適さないボイスには機能しません。



●レフトペダル(左のペダル)

ピアノボイスを選んでいるときにこのペダルを踏むと、ボリュームがわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。選んだボイスによって、このペダルに割り振られる設定が変わります。

- NOTE** レフトペダル効果の深さは調節できます(取扱説明書 CVP-309/307 : 60ページ、CVP-305/303 : 57ページ)。

●フットコントローラー / フットスイッチ

別売のYAMAHA FC7フットコントローラーやYAMAHA FC4/FC5フットスイッチをAUX PEDAL端子に接続して、ファンクション(取扱説明書 CVP-309/307 : 153ページ、CVP-305/303 : 151ページ)で設定したいろいろな機能をコントロールできます。

ペダルにいろいろな機能を割り当てる

クラビノーバの3本のペダルと別売りのフットコントローラー / フットスイッチには、スタイル(25ページ)をスタート/ストップしたり、フィルインを入れるスイッチとして使うなど、いろいろな機能を割り当てて使うこともできます。

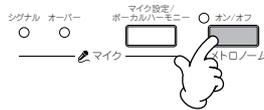
(取扱説明書CVP-309/307: 153ページ、CVP-305/303: 151ページ)

メトロノームを使う

正確なテンポで練習したいとき、また、実際のテンポを音で確かめたいとき、メトロノームをお使いください。

1 メトロノーム [オン/オフ]ボタンを押して、メトロノームをスタートさせます。

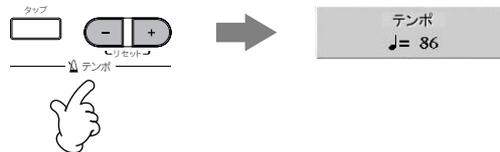
2 メトロノームをストップするには、もう一度メトロノーム [オン/オフ]ボタンを押します。



メトロノームのテンポや拍子などを設定する

■メトロノームのテンポを調節する

1 テンポ[-][+]ボタンを押して、画面中央にテンポを表示させます。



2 テンポ[-][+]ボタンを押して、テンポを調節します。
ボタンを押し続けることによって値が連続的に変わります。
テンポは、[データダイアル]でも調節できます。
テンポを初期値に戻すには、テンポ[-][+]ボタンを同時に押します。

NOTE テンポ画面の表示について

画面の数値は、1分間に刻まれる4分音符の回数です。設定範囲は5~500です。テンポは、表示の数値が大きくなるほど速くなります。

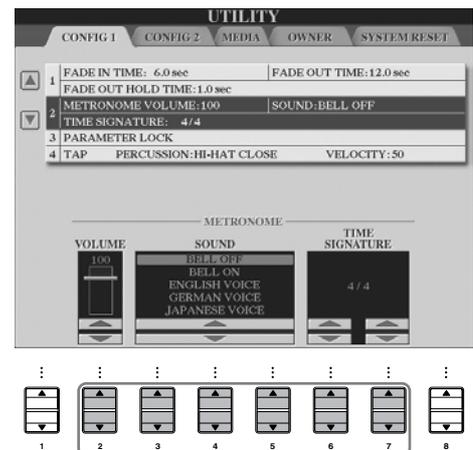
3 [戻る]ボタンを押して、テンポ画面を閉じます。

■メトロノームの拍子などを設定する

1 設定画面を表示させます：
[ファンクション]→[UTILITY]→タブ切替[◀] CONFIG 1→[B]2 METRONOME

2 [2▲▼]~[7▲▼]ボタンを押して、メトロノームの設定をします。

VOLUME (ボリューム)	メトロノームの音量を調節します。
SOUND (サウンド)	メトロノームの音を決めます。 BELL OFF メトロノーム音 (ベルなし) BELL ON メトロノーム音 (ベルあり) ENGLISH VOICE 英語のカウント GERMAN VOICE ドイツ語のカウント JAPANESE VOICE ... 日本語のカウント FRENCH VOICE フランス語のカウント SPANISH VOICE スペイン語のカウント
TIME SIGNATURE (タイムシグネチャー)	メトロノームの拍子を決めます。

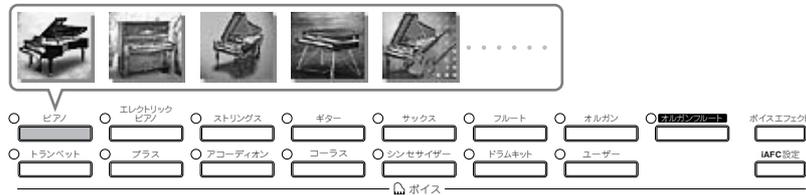


ボイス（楽器音）を変えて弾いてみましょう

クラビノーバでは、ピアノのほかに、弦楽器、管楽器などのボイス（楽器音）を選んで弾くことができます。

内蔵のボイスを選んで弾く

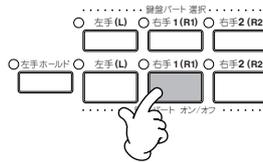
内蔵のボイスは、カテゴリー別に分けられています。パネルのボイスボタンは、内蔵ボイスのカテゴリーを表します。たとえば、[ピアノ]ボタンを押すと、画面にたくさんのピアノボイスが表示されます。



NOTE ボイスの種類を見る
別冊の「データリスト(ボイス一覧)」を参照してください。

1 鍵盤パートオン/オフ[右手1]ボタンを押して、右手パートをオンにします。

ここでは右手1パートのボイスを選ぶことになります。パートについては、取扱説明書38ページを参照してください。



2 ボイスボタンの1つを押してボイスカテゴリーを選びます。



3 タブ切替[◀]ボタンを押して、「プリセット」タブを選びます。

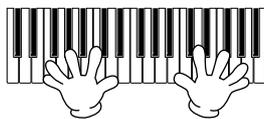
NOTE ボイス名の上には、「Natural!」などボイスの特長が表示されることがあります。ボイスの特長については、取扱説明書37ページを参照してください。



4 [A]～[J]ボタンを押して、ボイスを選びます。

NOTE [A]～[J]ボタンをダブルクリックする(すばやく2回続けて押す)と、ボイスを選んで元の画面に戻ります。

5 鍵盤を弾いてみましょう。



NOTE ワンタッチでピアノの設定に戻す
[ピアノ]ボタンを押します。



お気に入りのボイスを簡単に呼び出す

クラビノーバにはたくさんのボイスが内蔵されていますので、使いたいボイスをすぐに呼び出せず不便に感じてしまうかもしれません。よく使うお気に入りのボイスを簡単に呼び出すには、下記の2つの方法があります。

・ボイス選択画面の「ユーザー」画面に保存して、ボイス[ユーザー]ボタンで呼び出す。

1 お気に入りのボイスを、ボイス選択画面「プリセット」画面から「ユーザー」画面へコピーします。

コピーの方法は、取扱説明書28ページを参照してください。

2 ボイス[ユーザー]ボタンを押してボイス選択画面を表示させ、お気に入りのボイスを選びます。

ボイスを選ぶには、[A]～[J]ボタンを押してください。

・レジストレーションメモリーに保存して、レジストレーション[1]～[8]ボタンで呼び出す。

レジストレーションメモリーの使い方は、取扱説明書 CVP-309/307 : 89ページ、CVP-305/303 : 87ページを参照してください。

ボイスの特徴がわかる演奏を聞く

選んだボイスを使ってどんな演奏ができるのか、聞いてみましょう。

1 ボイス選択画面(11ページ手順2)で[8▼](デモ)ボタンを押して、演奏をスタートします。

2 演奏をストップするときは、もう一度[8▼](デモ)ボタンを押します。

打楽器音を選ぶ

[ドラムキット]ボタンで選べるボイスのうち「***キット」という名前のボイスは、打楽器音色が各鍵盤に割り当てられています。別冊データリストのドラムキットリストを参考にして、音を鳴らしてみましょう。

鍵盤の奥には、スタンダードキット1を選んだときに、各鍵盤に割り当てられる打楽器のイラストが印刷されています。

効果音を選ぶ

鍵盤で、効果音を鳴らせます。効果音には、鳥のさえずりや波の音などがあります。効果音は、「GM&XG」/「GM2」というカテゴリーに入っています。

- 1 鍵盤パート選択[右手1]ボタンを押して、ボイス選択画面を表示させます。
- 2 [8▲](上へ)ボタンを押して、ボイスのカテゴリーを表示させます。
- 3 [2▲]ボタンを押して、2ページめを表示させます。
- 4 [E]/[F]ボタンを押して、「GM&XG」/「GM2」を選びます。
- 5 [2▲]ボタンを押して、2ページめを表示させます。
- 6 [F]ボタンを押して、「効果音」を選びます。
- 7 [A]~[J]ボタンを押して、効果音を選びます。
- 8 鍵盤を弾いてみましょう。

GM/XG/GM2ボイスを選ぶ

パネルのボタンで、GM/XG/GM2ボイスを選ぶことができます。上記「効果音を選ぶ」の手順1~4に従ったあと、好きなボイスを選びます。

いくつかのボイスを同時に鳴らす

クラビノーバでは、いくつかのボイスを同時に鳴らせます（取扱説明書38ページ）。

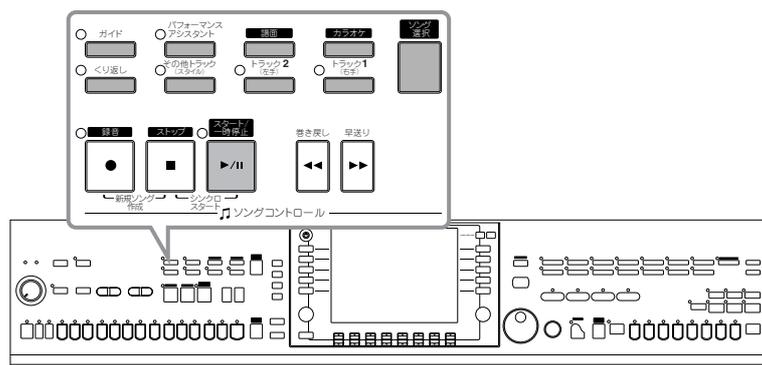
• 2つのボイスを重ねて鳴らす

ソロやサビなどで厚みがある音が欲しいときに効果的です。

• 鍵域を左右に分けて別々の2つのボイスを鳴らす

右手と左手を違う音で弾くことができます。たとえば、左手でベース音色を、右手でピアノ音色を演奏できます。

ソングに合わせて練習してみよう



NOTE ソングとは
クラビノーバでは、演奏データ(曲データ)を総称して「ソング」と呼んでいます。

練習の前にソングを聞いてみましょう

クラビノーバには、デモ曲のほかにもソングデータが入っています。ここでは、内蔵ソングやスマートメディアに入っているソングを再生してみましょう。また、選んだソングの譜面を画面に表示させてみましょう。

内蔵のソングを聞く

- 1 [ソング選択]ボタンを押して、ソング選択画面を表示させます。



- 2 タブ切替[◀]ボタンを押して、「プリセット」タブを選びます。



- 3 [A]～[J]ボタンを押して、ソングのカテゴリーを選びます。

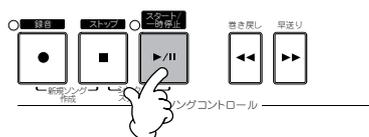
ソングは、カテゴリー別のフォルダーに入っています。

- 4 [A]～[J]ボタンを押して、ソングを選びます。

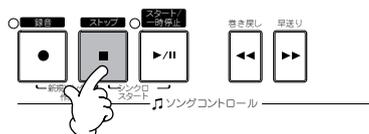
ソングは、[データダイアル]で選んで[エンター]ボタンを押して確定することもできます。

NOTE [A]～[J]ボタンをダブルクリックする(すばやく2回続けて押す)と、ソングを選んでメイン画面に戻ります。

5 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングをスタートします。



6 ソングコントロール[ストップ]ボタンを押して、ソングをストップします。



スマートメディアに入っているソングを聞く

① スマートメディアおよびカードスロットの扱い方について、必ず取扱説明書35ページをお読みください。

- 1 スマートメディアの端子部(金色)を下向きにして、カードスロット(挿入口)にカチッと音がするまで差し込みます。
- 2 [ソング選択]ボタンを押して、ソング選択画面を表示させます。
- 3 タブ切替[◀][▶]ボタンを押して、「カード」を選びます。



- 4 [A]~[J]ボタンを押して、ソングを選びます。

ソングを順番に連続再生する

内蔵/スマートメディアのソングを、ひとつのフォルダーの中で、順番にストップするまで連続再生できます。

- 1 連続再生したいフォルダーの中でソングを選びます。
- 2 設定画面を表示させます:
[ファンクション]→[B]SONG SETTING
- 3 [H](REPEAT MODE)ボタンを押して、「ALL」を選びます。
- 4 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングをスタートします。
同じフォルダーに入っているソングが、順番に、ストップするまで連続再生されます。
- 5 連続再生機能をオフにするには、手順2の画面でもう一度[H]ボタンを押して、「OFF」を選びます。

練習するパートだけ音量を上げて聞く

ソングは16チャンネルのMIDIデータで構成されています。練習したいチャンネルを指定し、音量を上げて聞いてみましょう。

- 1 ソングを選びます。ソングの選び方は、「内蔵のソングを聞く(14ページ)」「スマートメディアに入っているソングを聞く(15ページ)」と同じです。
- 2 [ミキサー]ボタンを押して、ミキサー画面を表示させます。



- 3 タブ切替[◀][▶]ボタンを押して、「VOL/VOICE」タブを選びます。
- 4 画面上部に「MIXING CONSOLE (SONG CH1~8)」が表示されるまで、[ミキサー]ボタンを繰り返し押します。
- 5 [E]/[J]ボタンを押して、「VOLUME」を選びます。
- 6 [1▲▼]~[8▲▼]ボタンの中で、音量を上げたいチャンネルに対応するボタンを押します。
「MIXING CONSOLE (SONG CH1~8)」に音量を上げたいチャンネルがない場合は、[ミキサー]ボタンを押して、「MIXING CONSOLE (SONG CH9~16)」を表示させます。

音量を上げたいチャンネルがどのチャンネルかわからない場合は...

・「VOICE」の下に表示されている楽器イラストを手がかりにします。



・ソングを再生したときに、鳴っているチャンネルはランプの表示が点灯します。この表示を手がかりにします。



譜面を表示させる

選んだソングの譜面を表示させます。練習を始める前に、画面に表示される譜面を見てみましょう。

- NOTE**
- ・ 譜面は、ご自分で録音したソングや市販のソングでも表示させることができます。
 - ・ 表示される譜面はソングデータ(演奏データ)を基に作成されます。そのため、細かい音符が多い曲や複雑な曲を表示するときは、市販の楽譜とは異なる場合があります。
 - ・ 音符を入力してソングデータを作成することはできません。ソングデータの作り方については取扱説明書 CVP-309/307: 102ページ、CVP-305/303: 100ページを参照してください。

1 ソングを選びます(14ページ)。

2 [譜面]ボタンを押して、譜面を表示させます。

- NOTE** ソングを再生する前に譜面を最後まで見る
タブ切替[▶]ボタンを押して、譜面のページをめくります。

3 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングをスタートします。

ソングの再生に合わせて、譜面上のボールが再生位置を移動します。

4 ソングコントロール[ストップ]ボタンを押して、ソングをストップします。

譜面の表示を変える

目的に合わせて、譜面の表示を変えることができます。

1 [譜面]ボタンを押して、譜面を表示させます。

2 目的に合わせて、下記の操作をします。

- ・ 譜面をもっと大きく表示させたい
[7▲▼]ボタンを押して、譜面の大きさを変えます。
- ・ 右手パート/左手パートの譜面だけ表示させたい
[1▲▼]/[2▲▼]ボタンを押して、左手パート/右手パートの譜面表示をオフにします。
- ・ 音符が読めないで補助の表示が欲しい
 - ・ 音符に音名(ドレミ...)を振る
 - 1 [5▲▼](NOTE)ボタンを押して、音名を表示させます。
 - 2 [8▲▼](SET UP)ボタンを押して、詳細設定画面を表示させます。
 - 3 [6▼](NOTE NAME)ボタンを押して、「Fixed Do」を選びます。
 - 4 [8▲](OK)ボタンを押して、確定します。
 - ・ 音符に色を付ける(CVP-309/307/305)
[6▲▼]ボタンを押して、「COLOR」をオンにします。

- NOTE** 音符の色について
音符ごとに決まった色が付きます。
C...赤、D...黄、E...緑、F...オレンジ、G...青、A...紫、B...グレー

・ 1画面に表示される譜面の段数を増やしたい

表示させる項目を少なくすれば、画面に一度に表示できる小節数は多くなります。
[1▲▼]~[4▲▼]ボタンを押して、不要な表示をオフにします。



必要に応じて、さらに詳細な譜面の表示方法を設定できます。

- 1 譜面画面で[8▲▼](SET UP)ボタンを押して、詳細設定画面を表示させます。
- 2 [1▲▼]~[6▲▼]ボタンを押して、譜面の表示方法(下記参照)を設定します。
- 3 [8▲](OK)ボタンを押して、確定します。

NOTE 譜面の表示設定を記憶させる(セットアップ)

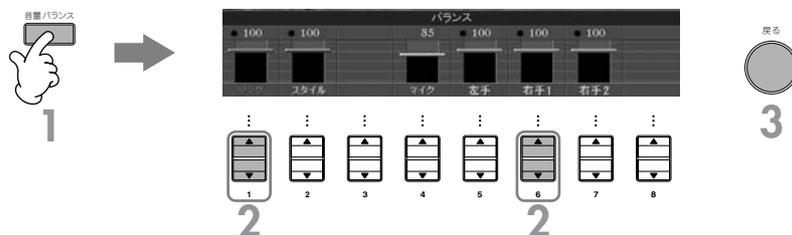
譜面表示の設定は、ソングデータの一部として記憶させることができます(取扱説明書 CVP-309/307 : 121ページ、CVP-305/303 : 119ページ)。

<p>LEFT CH(レフトチャンネル)/ RIGHT CH(ライトチャンネル)</p>	<p>左手で弾くべき譜面/右手で弾くべき譜面の、ソングデータ上のチャンネルを設定します。下記設定に関係なく、ソングを変更するとチャンネルは「AUTO」に戻ります。</p> <p>AUTO(オート) 左手で弾くべき譜面/右手で弾くべき譜面の、ソングデータ上のチャンネルを自動で設定します。ファンクションのソング設定画面で指定されているチャンネルと同じチャンネルに設定されます。</p> <p>1~16 左手で弾くべき譜面/右手で弾くべき譜面の、ソングデータ上のチャンネルを1~16チャンネルの中から設定します。</p> <p>OFF(オフ)(LEFT CHのみ) 左手で弾くべき譜面のみ譜面表示をオフにできます。</p>
<p>KEY SIGNATURE (キーシグネチャー)</p>	<p>譜面表示上調性(ハ長調、ホ短調など)のことです。ここでは、ソング再生を停止しているときの位置での譜面表示上の調性を変更します。選んだソングデータにキーシグネチャーが正しく設定されていない場合など、これを使うと有効です。</p>
<p>QUANTIZE(クオンタイズ)</p>	<p>表示される譜面はソングデータ(演奏データ)を基に作成されるため、譜面として正確に表示されない可能性があります。その場合、クオンタイズ設定で選んだソングの最も細かい音符を選ぶことによって、正しく見やすい譜面表示に変更することができます。</p>
<p>NOTE NAME(ノートネーム)</p>	<p>上記「音符に音名(ドレミ)を振る」の手順1でNOTE(ノート)がオンの場合の、ノートネーム表示形式を決めます。</p> <p>A, B, C(エービーシー) C D E F G A Bが表示されます。</p> <p>FIXED DO(フィックスド) 言語によって、下記のように表示が切り替わります。 言語はヘルプ画面の「LANGUAGE(3 ページ)」で設定します。</p> <p>英語 Do Re Mi Fa Sol La Ti 日本語 ド レ ミ ファ ソ ラ シ ドイツ語 Do Re Mi Fa Sol La Si フランス語 Ut Re Mi Fa Sol La Si スペイン語 Do Re Mi Fa Sol La Si イタリア語 Do Re Mi Fa Sol La Si</p> <p>MOVABLE DO(ムーバブルド) 各調の主音がドとして表示されます。たとえば、ト長調(主音がソ)のときは、ソがドとして表示されます。「FIXED DO」と同じように、言語によって表示が切り替わります。</p>

ソングの再生音と手弾き音の音量バランスを調節する

ソングの再生音と鍵盤演奏音の音量バランスを調節できます。

- 1 [音量バランス]ボタンを押して、音量バランスを調節する画面を表示させます。
- 2 ソングの音量を調節するには、[1▲▼]ボタンを押します。鍵盤演奏音(右手1)の音量を調節するには、[6▲▼]ボタンを押します。
- 3 [戻る]ボタンを押して、音量バランスを調節する画面を閉じます。



NOTE 鍵盤演奏音のパート(右手1、右手2、左手)について
取扱説明書38ページを参照してください。

その他のガイド機能

「ガイドランプを使って片手練習してみましょう」では、初期設定の「Follow Lights(フォローライツ)」というガイド機能を使用しました。ガイドには、ほかにも下記の機能があります。ガイド機能の選び方は、取扱説明書 CVP-309/307 : 100ページ、CVP-305/303 : 98ページを参照してください。

鍵盤練習用

• Any Key(エニーキー)

鍵盤を弾くタイミングを練習します。

カラオケ用

• Karao-Key(カラオケキー)

歌うタイミングに合わせて、ソング再生のタイミングをコントロールします。弾き語りをするとき便利です。

• Vocal CueTIME(ボーカルキュータイム)

歌声のピッチで、伴奏タイミングをコントロールします。正しいピッチで歌う練習ができます。

NOTE カラオケについて
33ページを参照してください。

ガイドランプに合わせて左手パート(トラック2)を弾く

1, 2 「ガイドランプに合わせて右手パートを弾く(19ページ)」と同じ操作です。

3 [トラック2(左手)]ボタンを押して、左手パートを消音します。

パートを消音すると、ランプが消えます。ランプが消えているパートが、練習パートです。

4 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押してソングをスタートさせ、消音したパートを練習しましょう。

5 ソングコントロール[ストップ]ボタンを押して、ソングをストップします。

6 [ガイド]ボタンを押して、ガイド機能をオフにします。

繰り返し再生を使って練習してみましょう

繰り返し再生を使って、1つのソングやソング内のある範囲を繰り返し再生できます。難しいフレーズを繰り返し練習するときなどに便利です。

1 曲を繰り返し再生する

- 1 ソングを選びます(14ページ)。
- 2 [くり返し]ボタンを押して、繰り返し再生をオンにします。
- 3 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングをスタートします。
ソングは、ソングコントロール[ストップ]を押すまで繰り返し再生されます。
- 4 [くり返し]ボタンを押して、繰り返し再生をオフにします。

指定の範囲を繰り返し再生する (AB リピート)

- 1 ソングを選びます(14ページ)。
- 2 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングをスタートします。
- 3 繰り返し位置を指定します。
繰り返し再生の開始位置(A点)にしたい所で[くり返し]ボタンを押します。繰り返し再生の終了位置(B点)にしたい所で、もう一度[くり返し]ボタンを押します。ソングは、曲に合わせたカウントが入ったあと、A点からB点までが繰り返し再生されます。

NOTE ワンタッチでA点に戻す
ソングの再生中、停止中にかかわらず、[ストップ]ボタンを押します。

- 4 ソングコントロール[ストップ]ボタンを押して、ソングをストップします。
- 5 [くり返し]ボタンを押して、繰り返し再生をオフにします。

その他の繰り返し範囲指定方法

・ソングの停止中にA点とB点を決めたい

- 1 [早送り]ボタンを押して、A点にしたい所までソングを進めます。
- 2 A点にしたい所で[くり返し]ボタンを押します。
- 3 [早送り]ボタンを押して、B点にしたい所までソングを進めます。
- 4 B点にしたい所で、もう一度[くり返し]ボタンを押します。

・A点からソングの最後まで繰り返ししたい

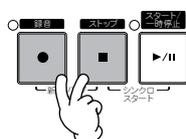
A点だけを指定します。A点だけを指定するとソングの終了位置が自動的にB点になり、A点からソングの最後までが繰り返し再生されます。

演奏を録音してみましょう

クイック録音の機能を使って、ご自分の演奏を録音してみましょう。練習している曲を録音して聞けば、練習ポイントをつかむことができます。また、連弾曲や数台のピアノのための曲などを弾く場合、相手パートを録音しておけば、1人でも練習できます。

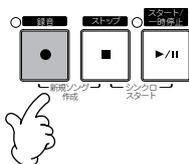
- 1 [録音]ボタンと[ストップ]ボタンを同時に押します。

録音のための空のソングが用意されます。



2 ボイスを選びます(11ページ)。選んだボイスで、録音されます。

3 [録音]ボタンを押します。

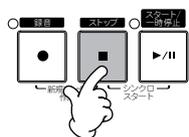


4 演奏しましょう。

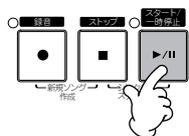
演奏を始めると自動的に録音がスタートします。

5 [ストップ]ボタンを押して、録音を終わります。

録音が終わると保存を促すメッセージが表示されます。メッセージを閉じるには、[戻る]ボタンを押します。



6 録音した演奏を試聴します。ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、今録音した演奏を再生します。



7 録音した演奏を保存します。

- 1 [ソング選択]ボタンを押して、ソング選択画面を表示させます。
- 2 タブ切替[◀][▶]ボタンを押して、ソングを保存する場所を選びます。楽器本体に保存する場合は「ユーザー」、スマートメディアに保存する場合は「カード」を選びます。
- 3 [6▼](保存)ボタンを押して、ファイル名を付ける画面を表示させます。
- 4 ファイル名を入力します(取扱説明書31ページ)。
- 5 [8▲](OK)ボタンを押して、ファイルを保存します。
保存を中止するときは、[8▼](CANCEL)ボタンを押します。

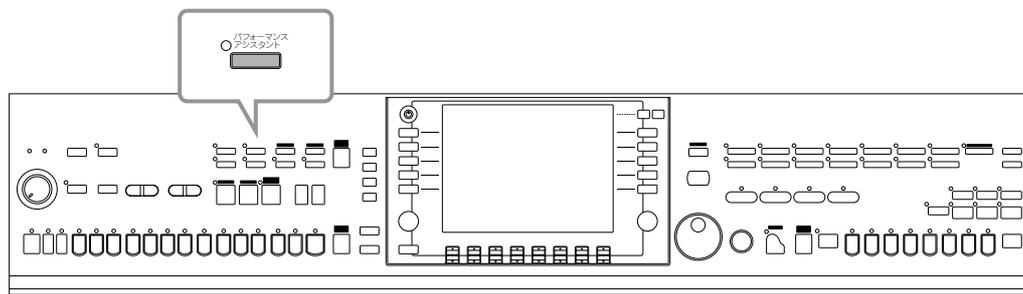
❗ 録音したソングを保存せずにソングを切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

メッセージ「"Song"が変更されています。保存しますか？」が表示されたら

録音した演奏は保存前の状態です。録音した演奏を保存したい場合は、[G](YES)ボタンを押してからソング選択画面で保存(上記参照)します。保存したくない場合は、[H](NO)ボタンを押します。

パフォーマンスアシスタント機能を使って バックイングを弾いてみましょう

パフォーマンスアシスタント機能を使えば、ソングを再生しながら簡単にバックイングを演奏できます。

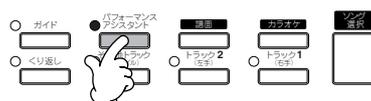


NOTE パフォーマンスアシスタント機能を使う条件
パフォーマンスアシスタント機能を使うソングには、コードデータが必要です。ソングにコードデータが入っている場合は、ソングを再生したときにメイン画面にコードが表示されます。

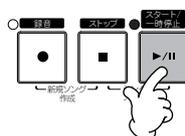
1 ソングを選びます(14ページ)。

内蔵ソングの「歌って楽しむ」フォルダーに入っているソングをおすすめします。

2 [パフォーマンスアシスタント]ボタンを押して、パフォーマンスアシスタント機能をオンにします。



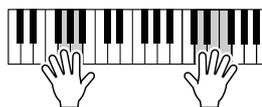
3 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングをスタートします。



4 鍵盤を弾きます。

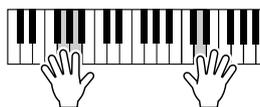
どの鍵盤を弾いてもソングに合ったバックイングを演奏できます。また、弾き方によってバックイングの鳴り方を変えることもできます。次の3とおりの弾き方を試してみましょう。

●左手と右手を同じタイミングで弾く(1)



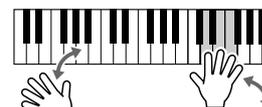
右手は一度に3音
まとめて弾く

●左手と右手を同じタイミングで弾く(2)



右手は「人さし指→中指→薬指」
のように1音ずつ弾く

●左手と右手を交互に弾く



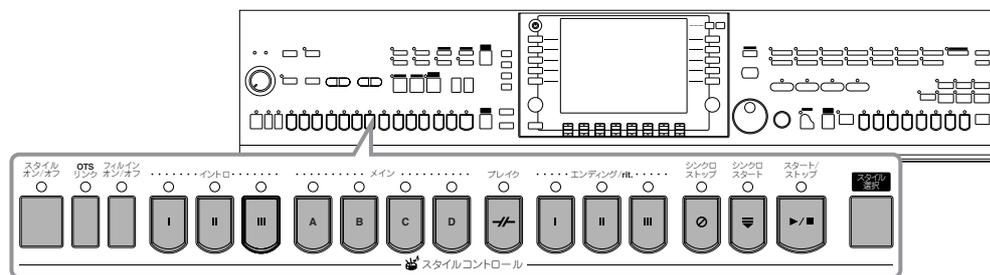
右手は一度に3音
まとめて弾く

5 ソングコントロール[ストップ]ボタンを押して、ソングをストップします。

6 [パフォーマンスアシスタント]ボタンを押して、パフォーマンスアシスタント機能をオフにします。

伴奏を自動で鳴らしてみましよう(スタイル再生)

「スタイル」というリズムパターンを使えば、左手でコードを押さえるだけでコードに合った伴奏を自動で鳴らすことができます。スタイルを使えば、一人で演奏しても、バンドやオーケストラの伴奏付きの演奏を楽しめます。スタイルには、ポップス、ジャズなどいろいろな種類があります。



スタイルを使って「メリーさんのひつじ」を演奏してみましよう

メリーさんのひつじ

Traditional

スタイル：カントリーポップ

1 [スタイル選択]ボタンを押して、スタイルグループを選ぶ画面を表示させます。



2 タブ切替[◀]ボタンを押して、「プリセット」タブを選びます。

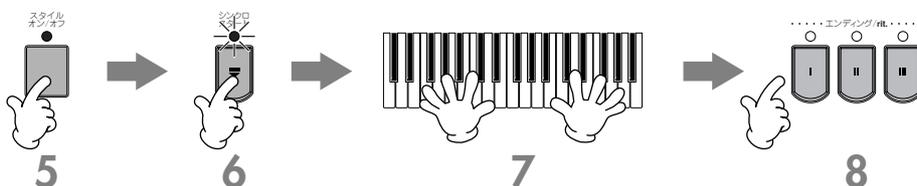
3 [A]～[J]ボタンを押して、スタイルのカテゴリー「カントリー」を選びます。

4 [A]～[J]ボタンを押して、スタイル「カントリーポップ」を選びます。

- NOTE**
- ・スタイル名の上には、「Session」などスタイルの特長が表示されることがあります。
 - ・スタイルの特長については、取扱説明書 CVP-309/307：65ページ、CVP-305/303：63ページを参照してください。
 - ・[A]～[J]ボタンをダブルクリックする(すばやく2回続けて押す)と、スタイルを選んで元の画面に戻ります。

5 [スタイルオン/オフ]ボタンを押して、スタイルをオンにします。

鍵盤の左手側(低音鍵域)が、スタイル再生用のコードを押さえるための鍵域(コード鍵域)になります。



6 [シンクロスタート]ボタンを押して、シンクロスタートをオンにします。

- NOTE** シンクロスタートとは、
コード鍵域を弾くと同時にスタイルの再生をスタートする機能です。

7 左手でコードを押さえると、スタイルがスタートします。

左手でコードを押さえながら、右手でメロディを弾きます。

- NOTE** コードの指定方法
コードには、7種類の指定方法(フィンガリング)があります(取扱説明書 CVP-309/307：65ページ、CVP-305/303：63ページ)。

8 楽譜上の「エンディング」の位置で[エンディング]ボタンを押して、エンディング(後奏)を鳴らします。

エンディングが終わると、スタイルが自動的にストップします。

- NOTE**
- ・ **スタイルの種類を見る**
別冊の「データリスト(スタイル一覧)」を参照してください。
 - ・ **演奏中にすばやくスタイルのテンポを変える(タップ機能)**
スタイル再生中に好きなテンポで[タップ]ボタンを2回たたいて、テンポを変更できます。
 - ・ **自動伴奏用の鍵域と右手鍵域の境め(スプリットポイント)を変える**
取扱説明書 CVP-309/307 : 68ページ、CVP-305/303 : 66ページを参照してください。
 - ・ **自動伴奏の音量にタッチレスポンスを付ける(スタイルタッチ)**
取扱説明書 CVP-309/307 : 69ページ、CVP-305/303 : 67ページを参照してください。

スタイルの再生音と手弾き音の音量バランスを調節する

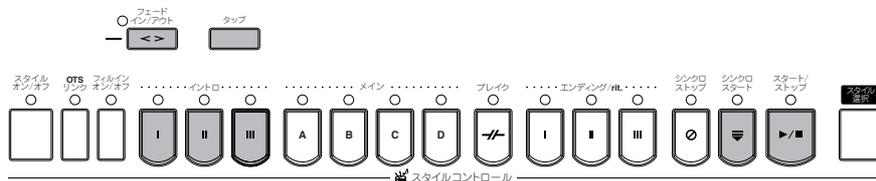
スタイルの再生音と鍵盤演奏音の音量バランスを調節できます。

- 1 [音量バランス]ボタンを押して、音量バランスを調節する画面を表示させます。
- 2 スタイルの音量を調節するには、[2▲▼]ボタンを押します。鍵盤演奏音(右手1)の音量を調節するには、[6▲▼]ボタンを押します。
- 3 [戻る]ボタンを押して、音量バランスを調節する画面を閉じます。

スタイル再生に変化を付ける

演奏を盛り上げるために、イントロやエンディングを付けたり、同じスタイルの中でリズムパターンを切り替えたりできます。スタイル再生の方法は、「演奏を始めるとき」「演奏中」「演奏が終わるとき」それぞれに数種類あります。これらを自由に組み合わせ合わせて演奏してみましょう。

演奏を始めるとき



●スタイルコントロール[スタート/ストップ]

スタイルコントロール[スタート/ストップ]ボタンを押して、スタイルをスタートします。

●イントロ

演奏にイントロを付けることができます。各内蔵スタイルに、3つのイントロがあります。イントロの演奏が終わるとメイン(下記「演奏中」の「メイン」参照)に移ります。

スタイル再生をスタートする前にイントロ[I]~[III]ボタンのいずれかを押し、スタイルコントロール[スタート/ストップ]ボタンを押して、スタイルをスタートします。

●シンクロスタート

鍵盤を弾くと同時にスタイル再生をスタートできます。

スタイル再生停止中に[シンクロスタート]ボタンを押し、コード鍵域を押さえてスタイルをスタートします。

●フェードイン

フェードイン(鳴り始めは小さく、だんだん音が大きくなる効果)をかけることができます。

スタイル再生停止中に[フェードイン/アウト]ボタンを押し、スタイルコントロール[スタート/ストップ]ボタンを押して、スタイルをスタートします。

●タップ

テンポを指定すると同時にスタイル再生をスタートできます。スタイル再生停止中にタイミングを取りながら[タップ]ボタンを叩くと(4/4拍子の場合は4回)、そのテンポでスタイルがスタートします。

NOTE タップでスタートするときに鳴らす音(PERCUSSION)とその音量(VELOCITY)は、下記の画面で設定できます。
[ファンクション]→[UTILITY]→タブ切替[◀]CONFIG 1→[B]4 TAP

演奏中



●メイン

曲のメイン部分の伴奏パターンです。数小節の伴奏パターンが繰り返し演奏されます。各内蔵スタイルに、4つのパターンがあります。

スタイル再生中に、メイン[A]～[D]ボタンのいずれかを押します。

●フィルイン

曲の流れに区切りを付けて演奏を盛り上げることができます。

スタイル再生をスタートする前かスタイル再生中に、[フィルイン オン/オフ]ボタンを押します。

フィルインをオンにしてメインを切り替えると、自動的にフィルインが演奏されてからメインが切り替わります。

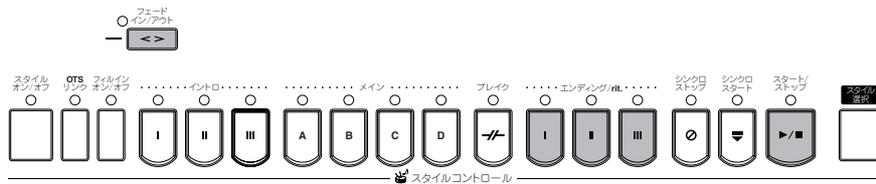
フィルインがオフの場合でも、再生中のメインのボタンを押すと、フィルインが入ります。

●ブレイク

曲の流れを一時中断することで区切りを付けることができます。

スタイル再生中に[ブレイク]ボタンを押します。

演奏を終わるとき



●スタイルコントロール[スタート/ストップ]

スタイルコントロール[スタート/ストップ]ボタンを押して、スタイルをストップします。

●エンディング

演奏にエンディングを付けることができます。各内蔵スタイルに、3つのエンディングがあります。エンディングの演奏が終わると、スタイルは自動的にストップします。

スタイル再生中に、エンディング[I]～[III]ボタンのいずれかを押します。エンディング演奏中にもう一度同じボタンを押すと、リタルダンド(徐々にテンポを遅くすること)をかけることができます。

●フェードアウト

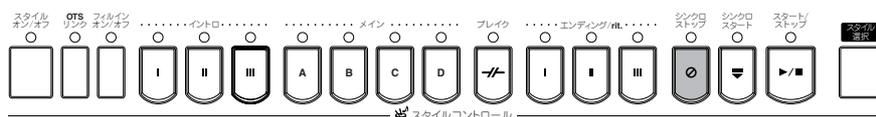
フェードアウト(だんだん音が小さくなって消える効果)をかけることができます。

スタイル再生をフェードアウトしたいところで[フェードイン/アウト]ボタンを押します。

NOTE フェードイン/アウトにかかる時間を設定する

取扱説明書 CVP-309/307：67ページ、CVP-305/303：65ページを参照してください。

その他



●シンクロストップ

コード鍵域で鍵盤を押さえている間はスタイルを再生させ、鍵盤から指を離すとスタイル再生をストップできます。スタイル再生をスタートする前に[シンクロストップ]ボタンを押します。

NOTE シンクロストップを一時的にオフにする(シンクロストップウィンドウ)

取扱説明書 CVP-309/307：69ページ、CVP-305/303：67ページを参照してください。

セクションをイントロかメインに固定する(セクションセット)

どのスタイルを選んでも、最初の伴奏パターンをイントロにしておきたいときなどに便利です(取扱説明書 CVP-309/307：69ページ、CVP-305/303：67ページ)。

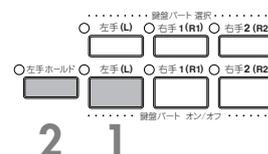
イントロ、メイン、ブレイク、エンディングボタンのランプについて

緑点灯 データが入っていて、現在選ばれていません。
赤点灯 データが入っていて、現在選ばれています。
点灯なし データが入っていません。

鍵盤から指を離しても左手パートのボイスを鳴らしたままにする(左手ホールド)

鍵盤から指を離しても、左手パートのボイスを鳴らしたままにすることができます。ストリングスのように減衰しないボイスを鳴り続けるようにしたり、ピアノのように減衰するボイスをより遅く減衰するように(サステインペダルを踏んだように)することができます。これにより、スタイル再生音全体を豊かなサウンドにできます。

- 1 鍵盤パートオン/オフ[左手(L)]ボタンを押して、左手パートをオンにします。
- 2 [左手ホールド]ボタンを押して、左手ホールドをオンにします。



コードの押さえ方を確かめる

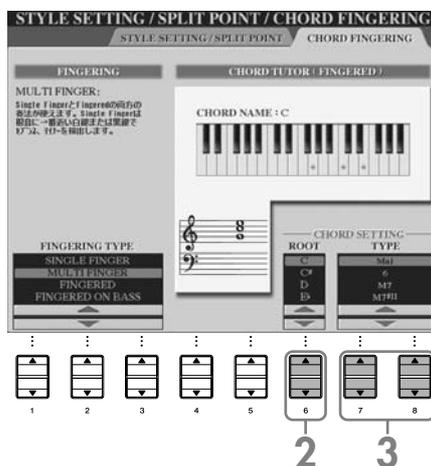
コードの押さえ方を画面に表示する

コード名がわかっているがコードの押さえ方がわからない場合は、コードの押さえ方を画面に表示できます(コードチューナー機能)。

1 設定画面を表示させます:

[ファンクション]→[C]STYLE SETTING/SPLIT POINT/CHORD FINGERING→タブ切替[◀][▶] CHORD FINGERING

2 [6▲▼]ボタンを押して、コードのルート音(根音)を選びます。



3 [7▲▼][8▲▼]ボタンを押して、コードのタイプを選びます。

画面にコードの押さえ方が表示されます。

NOTE コードは、どの奏法(フィンガリングタイプ 取扱説明書 CVP-309/307 : 66ページ、CVP-305/303 : 64ページ)を選んでいても FINGEREDの押さえ方で表示されます。

コードの押さえ方をガイドランプで確かめる

コードデータが入っているソングを使えば、コードの構成音をガイドランプで表示できます。

- 1 ソングを選びます(14ページ)。
- 2 [ファンクション]ボタンを押してから[B]ボタンを押してソング設定画面を表示させ、練習機能の種類(GUIDE MODE)が「Follow Lights(フォローライツ)」になっていることを確認します。
- 3 [スタイル オン/オフ]ボタンを押して、スタイルをオンにします。
- 4 [ガイド]ボタンを押します。
- 5 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングを再生します。

ソングのコードに合わせてコード鍵域のガイドランプが光ります。ガイドランプに合わせてコードを弾く練習を試みましょう。

選んだスタイルに最適なボイスなどを呼び出す (ワンタッチセッティング =OTS)

選んだスタイルに合ったボイスやエフェクトをワンタッチで簡単に呼び出せます。使いたいスタイルが決まっているときは、ボイス選択をワンタッチセッティングに任せてみましょう。

NOTE ワンタッチセッティング=OTS

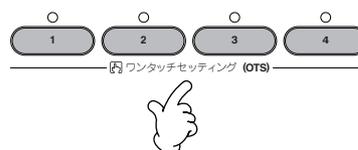
OTSとは、ワンタッチセッティング(One Touch Setting)の略です。

1 スタイルを選びます(24ページ)。

2 ワンタッチセッティング(OTS)[1]~[4]ボタンのいずれかを押します。

ボイスやエフェクトなど、選択中のスタイルに最適な設定が呼び出されます。

また、自動伴奏とシンクロスタートは、自動的にオンになります。



3 左手でコードを押さえると同時にスタイルがスタートします。

NOTE ・ 特定の設定を固定する(パラメーターロック)

特定の設定(エフェクトやスプリットポイントなど)を固定すれば、パネル設定が切り替わってもその設定を維持できます(取扱説明書 CVP-309/307 : 91ページ、CVP-305/303 : 89ページ)。

ワンタッチセッティングの便利な使い方

・スタイルのメイン切り替えとワンタッチセッティングの切り替えを連動させる(OTSリンク)

OTSリンク機能を使うと、スタイルのメイン[A]~[D]を切り替えたときに自動的にワンタッチセッティングを切り替えることができます。OTSリンク機能を使うには、[OTSリンク]をオンにします。

NOTE OTSを切り替えるタイミングを選ぶ(OTSリンクタイミング)

OTSリンクをオンにしてメインを切り替えたとき、OTSを切り替えるタイミングを選ぶことができます(取扱説明書 CVP-309/307 : 69ページ、CVP-305/303 : 67ページ)。

・ワンタッチセッティングにパネル設定を登録する

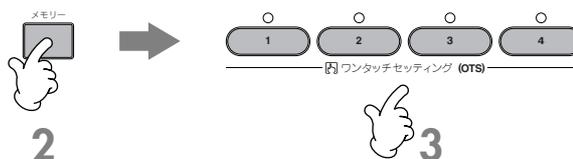
ワンタッチセッティングにお好みのパネル設定を登録できます。

1 スタイルやボイスを選ぶなど、パネルの設定状態を作ります。

2 [メモリー]ボタンを押します。

3 ワンタッチセッティング[1]~[4]ボタンのどれかを押します。
パネル設定の保存を促すメッセージが表示されます。

4 [F](YES)ボタンを押してスタイル選択画面を表示させ、パネル設定を、スタイルファイルとして保存します(取扱説明書27ページ)。

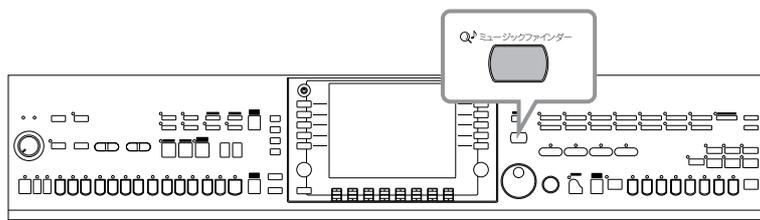


❗ パネル設定を保存せずにスタイルを切り替えたり電源を切ったりすると、記憶させたデータは失われます。ご注意ください。

弾きたい曲に合ったパネル設定を呼び出してみましょう (ミュージックファインダー)

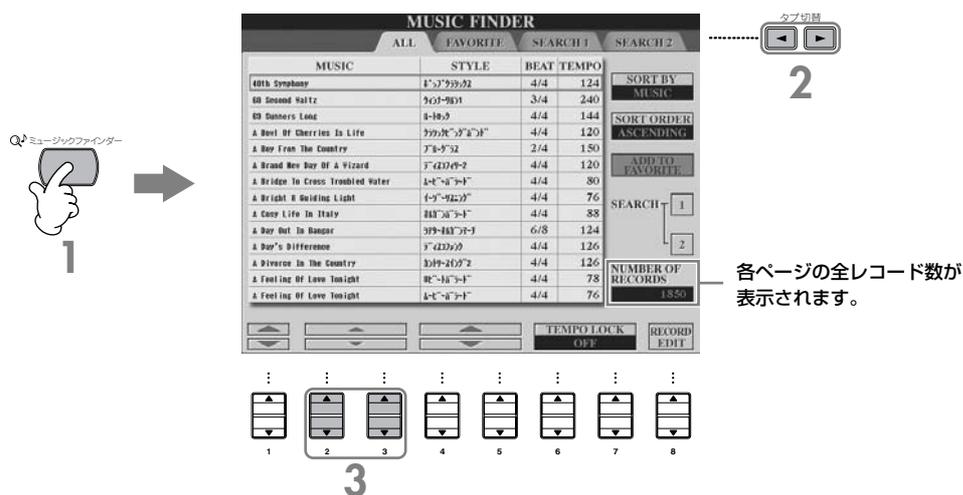
弾きたい曲に合ったボイスやスタイルなどのパネル設定がわからない場合、ミュージックファインダー機能を使うと便利です。ミュージックファインダーに登録されている、「レコード」と呼ばれるさまざまなパネル設定の中から、弾きたい曲に合ったパネル設定を呼び出すことができます。選ばれているレコードを編集して、新しいレコードを作ることができます(取扱説明書 CVP-309/307 : 72ページ、CVP-305/303 : 70ページ)。

- NOTE**
- ・ミュージックファインダーのデータ(レコード)は、パネルの設定データです。ソングではありませんので、再生させることができません。
 - ・付属のスマートメディアには、日本語の曲名が付いたレコードが収録されています。レコードを書き替えると、ミュージックファインダーで日本語の曲名を表示させることができます。レコードの書き替え方は、32ページを参照してください。



ソングに合ったパネル設定(レコード)を選ぶ

1 [ミュージックファインダー]ボタンを押して、ミュージックファインダー画面を表示させます。



2 タブ切替[◀]ボタンを押して、「ALL(オール)」を選びます。

「ALL」は、内蔵のレコードが入っているページです。

3 下記4つのキーワードからミュージックファインダーのデータ(レコード)を選びます。レコードを選ぶには、[2▲▼]/[3▲▼]ボタンを押します。

- NOTE**
- ・レコードは、[データダイアル]で選んで[エンター]ボタンを押して確定することもできます。
 - ・レコードを検索する
ミュージックファインダーの検索機能を使って、曲名やキーワードからレコードを探すことができます。(取扱説明書 CVP-309/307 : 70ページ、CVP-305/303 : 68ページ)

・MUSIC (ミュージック)..... 各レコードに登録されている、音楽ジャンルや曲のイメージタイトルです。この項目を使って、演奏したい音楽ジャンルを探します。

NOTE 同じ文字で始まるタイトルをスキップする

曲名順にレコードを表示させているときに[1▲▼]ボタンを押すと、同じ文字で始まる曲をスキップします。たとえば、Aで始まる曲名のレコードが選ばれているときに[1▼]を押すと、Bで始まる曲名のレコードに移動します。

・STYLE (スタイル)..... 各レコードに登録されている、クラビノーバ内蔵のスタイルです。

NOTE スタイル名順にスキップする

スタイル名順にレコードを表示させているときに[4▲▼]/[5▲▼]ボタンを押すと、次のスタイルに移動します。

- ・ BEAT (ビート) 各レコードに登録されている拍子です。
- ・ TEMPO (テンポ) 各レコードに登録されているテンポです。

4 コード鍵域でコードを押さえながら演奏してみましょう。

NOTE ・テンポを固定する(テンポロック)

テンポロックとは、スタイルを使って演奏しているときにレコードを変えても、テンポが変わらないようにする機能です。テンポロックをオンにするには、ミュージックファインダー画面で[6▲▼]/[7▲▼](TEMPO LOCK)ボタンを押します。

・特定の設定を固定する(パラメーターロック)

パラメーターロックとは、パネル設定を切り替えても、特定の設定(エフェクトやスプリットポイントなど)が変わらないようにする機能です。設定方法は、取扱説明書 CVP-309/307 : 91ページ、CVP-305/303 : 89ページを参照してください。

レコードを表示する順番を切り替える

[F](SORT BY)ボタンを押して、レコードの表示順を切り替えます。

- ・ MUSIC 曲名順
- ・ STYLE スタイル名順
- ・ BEAT 拍子の分母/分子の小さい順
- ・ TEMPO テンポの値の大きい (テンポが速い)順

レコード表示の昇順と降順を切り替える

[G](SORT ORDER)ボタンを押して、レコード表示の昇順(ASCENDING)と降順(DESCENDING)を切り替えます。

ミュージックファインダー レコードの書き替え方

付属のスマートメディアには、ミュージックファインダーのレコードが約2000収録されています。レコードを書き替えると、ミュージックファインダーで日本語の曲名を表示させることができます。ミュージックファインダーのレコードは、次の手順で書き替えます。

- ❗ ・スマートメディアおよびカードスロットの扱い方については、必ず取扱説明書35ページをお読みください。
- ・以下の操作を行なうと、内蔵の全レコード(「Music Finder」画面で表示されるすべてのレコード)が上書きされます。失いたくないデータがある場合は、ユーザー画面または別のスマートメディアに保存し(取扱説明書27ページ)、必要に応じて呼び出してください。

NOTE レコードを書き替えたあとでも、手順5で表示させた画面で「プリセット」画面から「MusicFinderPreset」を選ぶと、工場出荷時の状態に戻すことができます。

- 1 付属のスマートメディアをカードスロットに差し込みます。
- 2 [ファンクション]ボタンを押して「FUNCTION MENU」画面を表示させます。
- 3 [I] (UTILITY)ボタンを押して「UTILITY」画面を表示させます。
- 4 タブ切替[◀][▶]ボタンを押して「SYSTEM RESET」ページを表示させます。
- 5 [I] (MUSIC FINDER FILES)ボタンを押して「MUSIC FINDER」画面を表示させます。
- 6 タブ切替[▶]ボタンを押して「カード」ページを表示させます。
- 7 [A]-[F]ボタンのうち、お買い求めのモデル名(CVP-309の場合: CVP309 MF)に該当するボタンを押すと、レコードの書き替え/追加を選ぶメッセージが表示されます。
- 8 [G] (REPLACE)ボタンを押して、内蔵の全レコードをスマートメディア内のレコードに書き替えます。

NOTE APPENDを選ぶと、レコードを追加できます。追加できるレコード数には上限があります。

- 9 [ミュージックファインダー]ボタンを押して「MUSIC FINDER」画面を表示させ、レコードが書き替わっていることを確認します。

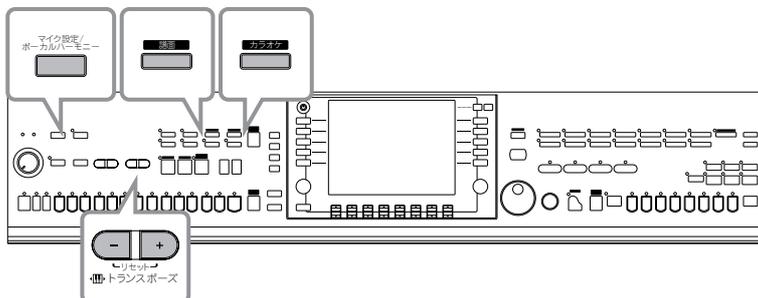
- 10 スマートメディアを抜いて大切に保管してください。

NOTE スマートメディアに入っているレコードと同じものが、付属のCD-ROMにも入っています。スマートメディアのレコードを消去した場合は、付属のCD-ROMに入っているレコードをお使いください。

カラオケや弾き語りをしてみましょう

クラブノーバにマイクを接続して、カラオケや弾き語りを楽しみましょう。

歌詞データが入っているソングデータは、歌詞画面に歌詞を表示できます。歌詞を見ながらマイクを使ってカラオケしましょう。また、歌詞は譜面と一緒に表示できます。譜面を見ながら弾き語りをしてみましょう。



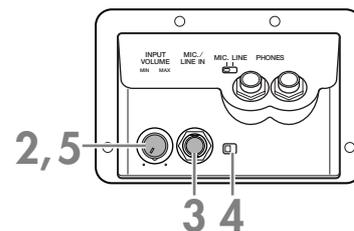
マイクを楽器本体に接続しましょう

1 別売りのダイナミックマイクを用意します。

2 本体底面の端子パネルの[INPUT VOLUME]を最小にします。

3 本体底面の端子パネルの[MIC./LINE IN]端子にマイクを接続します。

NOTE MIC./LINE IN端子に何も接続していない場合は、INPUT VOLUMEを常にMIN(最小)にしてください。MIC./LINE IN端子は感度が高いため、何も接続していない場合でもなんらかのノイズを拾ってしまう可能性があります。



4 本体底面の端子パネルの[MIC. LINE]切り替えスイッチをMIC.側に切り替えます。

5 (電源付きのマイクの場合は電源を入れてから)マイクに向かって声を出しながら、[INPUT VOLUME]を調整します。

[シグナル]ランプ、[オーバー]ランプを見ながら調整してください。[シグナル]ランプは、音声が入力されたときに点灯します。このランプが点灯するように調整してください。[オーバー]ランプは、入力音声が大きすぎる場合に点灯します。このランプが点灯しないように調整してください。



マイクを外す

1 本体底面の端子パネルの[INPUT VOLUME]を最小にします。

2 本体底面の端子パネルの[MIC./LINE IN]端子から、マイクを外します。

NOTE 楽器本体の電源をオフにする前にも[INPUT VOLUME]を最小にしてください。

歌詞を表示させて歌いましょう

歌詞データが入ったソングを鳴らしながら歌ってみましょう。

1 ソングを選びます(14ページ)。

2 [カラオケ]ボタンを押して、歌詞画面を表示させます。

3 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングをスタートします。

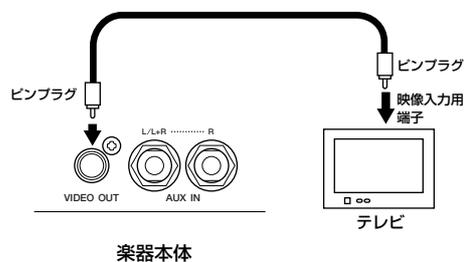
画面の歌詞を見ながら歌いましょう。ソングの再生に合わせて、歌詞の色が変わります。

4 ソングコントロール[ストップ]ボタンを押して、ソングをストップします。

歌詞をテレビ画面に映す(CVP-309/307/305)

画面に表示される歌詞を、クラビノーバに接続したテレビ画面に表示させることができます。

- 1 クラビノーバの[VIDEO OUT]端子とテレビの[VIDEO IN]端子を、映像用接続コードで接続します。
- 2 必要に応じて、テレビの信号方式を選びます。
 - 1 設定画面を表示させます:
[ファンクション]→[G]VIDEO OUT
 - 2 [1▲▼]ボタンを押してテレビの信号方式を選びます。
日本国内では、通常NTSCです。



- NOTE**
- ・ 歌詞が文字化けしたら
ソング設定画面([ファンクション]→[B]SONG SETTING)で、「LYRICS LANGUAGE」を「JAPANESE」か「INTERNATIONAL」に切り替えます。切り替えた設定は、ソングデータの一部として記憶させることができます(セットアップ)(取扱説明書 CVP-309/307 : 121ページ、CVP-305/303 : 119ページ)。
 - ・ 歌詞の背景を変える(CVP-309/307/305)
歌詞の背景は、変えることができます。歌詞画面で[7▲▼]/[8▲▼](BACKGROUND)ボタンを押して背景選択画面を表示させ、お好きな背景に切り替えてください。[戻る]ボタンを押して、元の歌詞画面に戻ります。
CVP-309/307では、歌詞の背景をソングデータの一部として記憶させることができます(セットアップ)(取扱説明書 CVP-309/307 : 121ページ)。
 - ・ 歌詞を書き替える
歌詞は、書き替えられます。取扱説明書 CVP-309/307 : 126ページ、CVP-305/303 : 124ページを参照してください。

カラオケをするのに便利な設定

テンポを調節する	▶	10 ページ
移調(トランスポーズ)する	▶	下記参照
歌声にエフェクトをかける	▶	下記参照
歌声にハーモニーを付ける	▶	下記参照
正しいピッチで歌う練習をする(Vocal CueTIME)	▶	取扱説明書 CVP-309/307: 100ページ、 CVP-305/303: 98ページ

移調 (トランスポーズ) する

ソングのキーが高い/低いときに、キーの高さを調節できます。

- ・ ソングのキーを上げたい トランスポーズ[+]ボタンを押します。
- ・ ソングのキーを下げたい トランスポーズ[-]ボタンを押します。
- ・ 元のキーに戻したい トランスポーズ[+][-]ボタンを同時に押します。

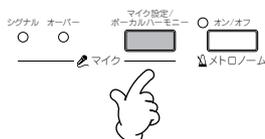
トランスポーズ画面を閉じるときは、[戻る]ボタンを押します。



歌声にエフェクトをかける

マイクで歌った歌声に、いろいろなエフェクト(エコーなどの効果)をかけることができます。

- 1 [マイク設定]ボタンを押して、設定画面を表示させます。



- 2 [4▲]/[5▲]ボタンを押して、エフェクトをオンにします。

NOTE エフェクトを選ぶ

ミキサー画面で、エフェクトの種類を選べます(取扱説明書 CVP-309/307 : 51ページ、CVP-305/303 : 49ページ)。

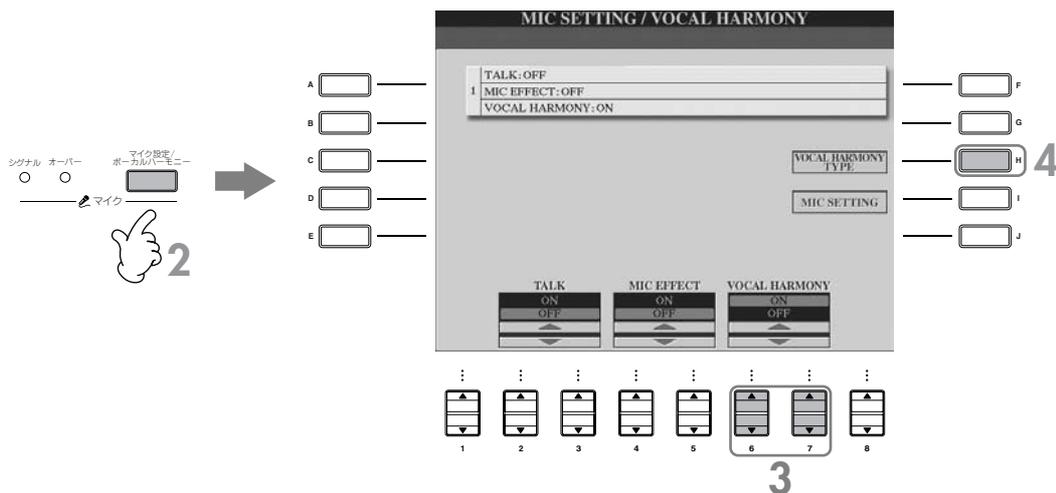
歌声にハーモニーを付ける (ボカールハーモニー)

マイクで歌った歌声に、ハーモニーを付けることができます。

- 1 コードデータが入ったソングを選びます(14 ページ)。

ソングにコードデータが入っている場合は、ソングを再生したときにメイン画面にコードが表示されます。

- 2 [マイク設定]ボタンを押して、設定画面を表示させます。



3 [6▲]/[7▲]ボタンを押して、ボークルハーモニーをオンにします。

4 [H]ボタンを押して、ボークルハーモニー選択画面を表示させます。

5 [A]～[J]ボタンを押して、ボークルハーモニーのタイプを選びます。

ボークルハーモニーのタイプについては、別冊データリストを参照してください。



6 [スタイル オン/オフ]ボタンを押して、スタイルをオンにします。

7 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押してソングをスタートし、マイクに向かって歌ってみましょう。

コードデータに合わせてハーモニーが付きます。

マイクの音量とソングの再生音の音量バランスを調節する

マイクの音量とソングの再生音の音量バランスを調節できます。

- 1 [音量バランス]ボタンを押して、音量バランスを調節する画面を表示させます
- 2 マイクの音量を調節するには、[4▲▼]ボタンを押します。
ソングの音量を調節するには、[1▲▼]ボタンを押します。
- 3 [戻る]ボタンを押して、音量バランスを調節する画面を閉じます。

弾き語りをするのに便利な設定

弾き語りしやすいキーに変える(移調=トランスポーズ)	▶	下記参照
歌詞をテレビに映しているとき(34 ページ)に楽器で譜面を表示させる(CVP-309/307/305)	▶	下記参照
歌と歌の合間におしゃべり(トーク)を入れる	▶	38 ページ
歌うタイミングに合わせてソング再生のタイミングをコントロールする(Karao-Key)	▶	取扱説明書 CVP-309/307:100ページ、 CVP-305/303:98ページ

弾き語りしやすいキーに変える

ソング再生と鍵盤演奏の両方をそれぞれ特定のキーに移調(トランスポーズ)できます。たとえば、ソングデータはFのキーだけ、歌うのはDのキーが歌いやすく、鍵盤パートの演奏はCのキーに慣れているといった場合に移調します。キーを合わせるために、マスタートランスポーズは「0」に、キーボードトランスポーズは「2」に、ソングトランスポーズは「-3」に設定します。これで、鍵盤パートはキーが上がり、ソングデータは歌いやすいキーに下がります。

1 設定画面を表示させます：

[ファンクション]→[D]CONTROLLER→タブ切替[▶]KEYBOARD/PANEL→[B]TRANSPOSE ASSIGN

2 [4▲▼][5▲▼]ボタンを押して、トランスポーズの種類を選びます。

下記3種類の設定があるので、目的に合わせて移調します。

●KEYBOARD(キーボード)

鍵盤演奏音、および鍵盤演奏によって発音するスタイル再生音が移調します。

●SONG(ソング)

ソング再生音が移調します。

●MASTER(マスター)

クラビノーバが発音するすべてのサウンド(鍵盤の音やソング、スタイルなど)が移調します。

3 トランスポーズ[-]/[+]ボタンを押して、トランスポーズします。

移調は、半音単位で行なわれます。

元のキーに戻したいときは、トランスポーズ[-]/[+]ボタンを同時に押します。

4 [戻る]ボタンを押して、トランスポーズ画面を閉じます。

歌詞をテレビに映しているときに楽器で譜面を表示させる(CVP-309/307/305)

歌詞をテレビに映しているとき(34 ページ)、楽器の画面で譜面など(歌詞以外の画面)を表示できます。

1 設定画面を表示させます：

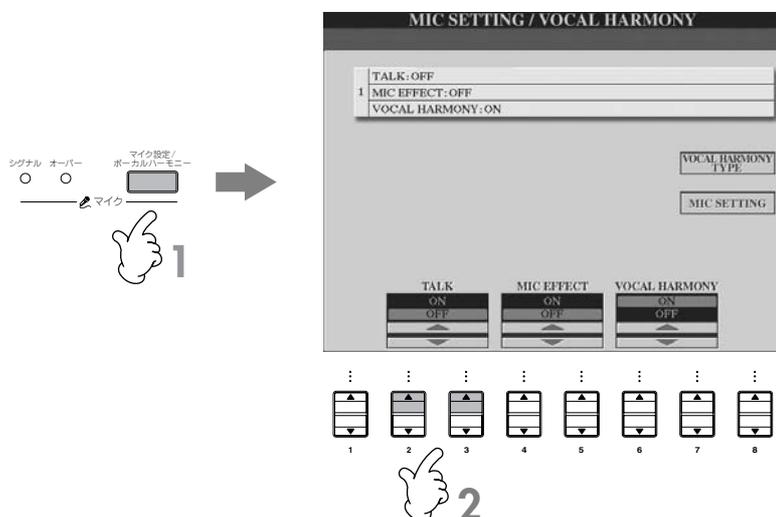
[ファンクション]→[G]VIDEO OUT

2 [3▲]/[4▲]ボタンを押して、LYRICS(リリックス=歌詞)を選びます。

歌と歌の合間におしゃべり（トーク）を入れる

ライブやコンサートなどで、ボーカリストが歌と歌の合間にトークを入れたい場合、歌うときに使っているエフェクトは、トークの邪魔になってしまいます。そんなときトーク機能をオンにすれば、一時的にエフェクトをキャンセルできます。

- 1 弾き語りをする前に、[マイク設定/ボーカルハーモニー]ボタンを押して、マイク設定画面を表示させておきます。



- 2 おしゃべりを入れたいときに、[2▲]/[3▲]ボタンを押して、トーク機能をオンにします。

NOTE トーク機能をオンにしたときのマイクの音量やエフェクトなどは、調節できます(取扱説明書 CVP-309/307:133ページ、CVP-305/303:131ページ)。

索引

[1 ▲▼] ~ [8 ▲▼] ボタン 5

A

AB リピート 21

[A] ~ [J] ボタン 5

C

CONFIG 1 (コンフィグ 1) 10、26

K

KEYBOARD/PANEL (キーボード/パネル) 8、37

O

[OTS リンク] ボタン 30

R

REPEAT MODE (リピートモード) 15

V

VIDEO OUT (ビデオアウト) 34

I

イントロ [I] ~ [III] ボタン 26

E

エフェクト (マイク) 35

エンディング [I] ~ [III] ボタン 27

オ

[音量バランス] ボタン 20

カ

カード 6

[ガイド] ボタン 19

ガイドランプ 19

歌詞 34

歌詞の背景 34

片手練習 19

カラオケ 33

ク

繰り返し再生 21

[くり返し] ボタン 21

コ

効果音 13

コードチューター機能 28

シ

自動伴奏 24

[シンクロスタート] ボタン 26

[シンクロストップ] ボタン 27

ス

[スタート/一時停止] ボタン 15

[スタート/ストップ] ボタン 26

スタイル 24

[スタイルオン/オフ] ボタン 25

[スタイル選択] ボタン 25

[ストップ] ボタン 15

セ

選択画面 5

ソ

ソステヌートペダル 9

ソング 14

[ソング選択] ボタン 14

タ

打楽器音 13

[タップ] ボタン 26

タブ切替 [◀][▶] ボタン 6

ダンパーペダル 9

テ

[デモ] ボタン 3

デモ (ボイス) 13

テンポ [][+] ボタン 10

ト

トーク 38

[トラック 1 (右手)] ボタン 19

[トラック 2 (左手)] ボタン 20

トランスポーズ [][-] ボタン 35、37

ハ

ハーモニー (ボーカルハーモニー) 35

パフォーマンスアシスタント機能 23

[パフォーマンスアシスタント] ボタン 23

ヒ

[ピアノ] ボタン 8

ピアノロック 8

[左手ホールド] ボタン 28

フ

ファンクション画面 6

[ファンクション] ボタン 6

[フィルイン オン/オフ] ボタン 27

[フェードイン/アウト] ボタン 26

フットコントローラー 9

フットスイッチ 9

[譜面] ボタン 17

プリセット 6

[ブレイク] ボタン 27

ヘ

ペダル 9

ホ

ボイス 11

ボイスボタン 11

マ

[マイク設定 / ボーカルハーモニー] ボタン 33、35

マイク接続 33

ミ

[ミュージックファインダー] ボタン 31

メ

メイン [A] ~ [D] ボタン 27

メイン画面 5

メトロノーム [オン/オフ] ボタン 10

モ

[戻る] ボタン 6

ユ

ユーザー 6

レ

レフトペダル 9

ロ

[録音] ボタン 21

ワ

ワンタッチセッティング (OTS) [1] ~ [4] ボタン 30

ヤマハ株式会社